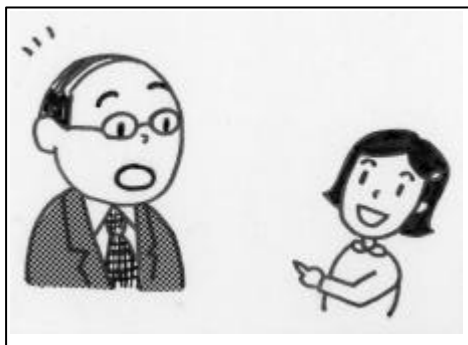


## 第 1 部

こんな場面  
ありませんか

### 相手の気持ちを傷つけることが分からない



髪の毛の少ない校長先生を見たとき、  
「はげてる」と平気で言ってしまう。  
目上の人という意識をせずに、  
見たとおり言います。

「さん、太っているね」と  
言うてしまうのです。  
悪気はないのですが...



**社会性に問題がでてきます**

対応は...

- ・ その場で起こったことをすぐに振り返らせましょう
- ・ ソーシャルスキルを高めましょう



図 1 ソーシャルスキルトレーニングカード

ことばと発達学習室M「ソーシャルスキルトレーニング絵カード5」より

## 解 説



自分が言われたときの気持ちや相手の気持ちを想像できず、思ったことをそのまま言ってしまいます。

このようなことは、小さいときには許されても、年齢が上がるにつれ、度重なると問題になります。かなり大きくなって（例えば成人しても）場の雰囲気を読めずに、言わなくていいことまで言ってしまうと、対人関係がうまくいかなくなり、暮らしにくくなります。

対応は...

一つ一つの場面ごとに具体的に教えることが必要です。  
時間が経てば分からなくなるので、その都度、自分の行動や言った言葉、言われた相手の気持ちを考えさせます。  
「今日のできごと」として日記などで振り返ることも一つの方法です。

この他に、社会性の問題として、マイペースでかかわりが一方的、友達関係を作ることに興味を示さない、暗黙の了解が分からないことなどがあげられます。

そのために孤立したり、トラブルになったりすることがありますが、このような特徴があることを理解して、ソーシャルスキルトレーニング、場面に応じたロールプレイ、相手の表情を読み取る練習などを行いましょう。

その際、微妙な気持ちの変化を言葉で表すより、視覚的に表現する方が理解しやすい場合があるので、前ページの絵カード(図1)やシンボルマーク(図2)を使う方法もあります。



図2 表情を示したシンボルマーク  
トニー・アトウッド『ガイドブック・アスペルガー症候群』より

また、クラスでの取組として、「よいところさがし」というようなテーマを設定し、お互いのよさを認め合ったり、自分の気持ちの表し方を学んだりする機会を設けるとよいでしょう。



頭ごなしに 叱らない

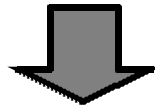
関連ページ  
P 15 ~ 17

こんな場面  
ありませんか

## 字義どおりの解釈をする



曲がらないと家に帰れないのに？



コミュニケーションに問題がでてきます

対応は...



まっすぐという意味を具体的に説明する

「今日は があるから、学校が終わったら  
どこにも寄らずに帰ってくるのよ。」

## 解 説



複数の意味をもつ言葉や慣用表現を理解しにくいので、前後の文脈に関係なくその言葉の代表的な意味どおりに解釈して、誤解が生じます。「まっすぐ」は主に「直線的」という意味で使われますが、「まっすぐ帰る」という場合は「寄り道をしないで」という意味になります。「(家に)まっすぐに帰ってきなさい」と言われても、「いっぱい道を曲がらないと家に帰れないよ」と思ってしまうのです。

このようなことが頻繁に起こると、会話などの人とのやり取りで、行き違いが生じやすくなります。

対応は...



左ページ下の  
のような、具体的で分かりやすい表現を心がけてください。

また、一方で、日常よく使う慣用表現（例えば「三日坊主」や「猫の手も借りたい」）や、複数の意味がある言葉などは、説明を加えながら意図的に教えるとよいでしょう。

この他にも、コミュニケーションの問題として、多弁なわりに助詞や受動文の理解と使用に誤りがあったり、妙に大人びた口調や堅苦しい言い回しをしたり、独り言が多かったりすることなどがあげられます。

このようなことがあると、人をからかっていると誤解されたり、逆にからかわれたりするので、「会話の技術」を教えることが必要です。

その際、やり取りの様子やそのときの気持ちが見て分かりやすいように、コミック会話(図3)や吹き出しのある漫画などを使う方法もあります。

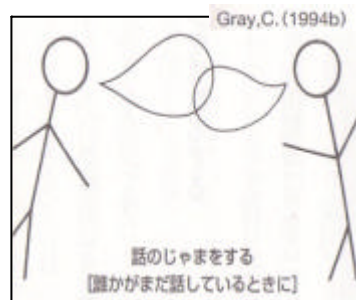


図3 コミック会話の例

クラスでの取組として、会話文の多い文章の音読や、表紙絵のようなペーパースートなどを使って、やり取りをする機会を設けるとよいでしょう。



ひとつずつ ていねいに

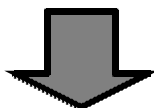
関連ページ  
P17～18

こんな場面  
ありませんか

## 固定化された習慣



細かいことにこだわってしまう  
いったん決めたことは必ず守ろうとする



著しく偏ったこだわりになります

対応は...



見通しをもたせる

予告をする

## 解 説



このケースの子どもは、いつも 11 時に寝ることを習慣にしていたのですが、その時刻になっても宿題が終わらなかったために、一種のパニック状態になってしまいました。こうなると、せっかくのよい生活習慣も融通の利かない固定化された習慣、つまり「こだわり」になるのです。

対応は...

始めと終わりの時刻や活動内容と場所を明確にして見通しをもたせることが大切です(これを構造化 といいます)。  
事前に「予定の変更があるかもしれない」ということも予告しておいて、受け入れやすいものにします。そして、変更を受け入れられたときは、ほめましょう。

この他にも、強迫的思考や極端なコレクションをするというような様子が見られます。

次の行動に移ることができないほどこだわってしまうときには、折り合いをつけることが大切です。その際、スケジュールをきちんと示し、本人が納得して終了できるように配慮しましょう。

また、細かなところにこだわるがあっても、それをやめさせようとするのではなく、長所となるように支援する姿勢が大切です。例えば、機械的な記憶が得意で反復を好むので、コンピューターには優れた能力を発揮することがあるのです。

構造化とは「いつ」「どこで」「何を」するのかを 分かりやすく伝える一つの方法。  
場所と活動が 1 対 1 の対応をするように、一つの場所を多目的に用いないようにしたり、スケジュールを視覚的に分かりやすくすることなどがあります。



こだわりに こだわらない

関連ページ  
P 18